4 補償給付の参考例

◇ 在職年数10年未満の副分団長 [扶養親族：妻及び子（中・小学生2人）]が、次例の補償給付を受けた場合の算定例

・補償基礎額：11,553円＝10,670円（基礎額）＋217円（妻）＋666円（子2人）

令和2年4月1日現在

例	補償の種類	給付額	計
1 1年間療養しその間、休業した場合	損害	① 療養補償費	医療費実費
		② 休業補償費	6,931円(1日)×365日=2,529,815円(月平均210,818円)
	福祉	③ 休業援護金	2,310円(1日)×365日=843,150円(月平均70,263円)
	合計		3,372,965円(月平均281,080円)
2 1年6箇月後、傷病等級第1級に該当した場合(要家族による常時介護)	損害	① 療養補償費	医療費実費
		② 傷病補償年金	11,553円×313倍=3,616,089円(50円以上切上)→3,616,100円(年金)
		③ 介護補償費	166,950円×12月=2,003,400円
	福祉	④ 傷病特別給付金	11,553円×313倍×20/100=723,217.8円(50円未満切捨)→723,200円(年金)
		⑤ 傷病特別支給金	1,140,000円(一時金)
		⑥ 奨学援護金	32,000円(2人)×12月=384,000円(中・小学生2人の年額)
合計		7,866,700円(次年度以降(一時金を除く):6,726,700円)	
3 傷病の治ゆ後障害等級第1級の障害が残った場合(要家族による常時介護)	損害	① 障害補償年金	11,553円×313倍=3,616,089円(50円以上切上)→3,616,100円(年金)
		② 介護補償費	166,950円×12月=2,003,400円
	福祉	③ 障害特別給付金	11,553円×313倍×20/100=723,217.8円(50円未満切捨)→723,200円(年金)
		④ 障害特別支給金	3,420,000円(一時金)
		⑤ 障害特別援護金	15,400,000円(一時金)
		⑥ 奨学援護金	32,000円(2人)×12月=384,000円(中・小学生2人の年額)
合計		25,546,700円(次年度以降(一時金を除く):6,726,700円)	
4 死亡した場合 遺族年金を受けられる遺族	損害	① 遺族補償年金	11,553円×223倍=2,576,319円(50円未満切捨)→2,576,300円(年金)
		② 葬祭補償費	11,553円×60倍=693,180円(一時金)
	福祉	③ 遺族特別給付金	11,553円×223倍×20/100=515,263.8円(50円以上切上)→515,300円(年金)
		④ 遺族特別支給金	3,000,000円(一時金)
		⑤ 遺族特別援護金	18,600,000円(一時金)
		⑥ 奨学援護金	32,000円(2人)×12月=384,000円(中・小学生2人の年額)
合計		25,768,780円(次年度以降(一時金を除く):3,475,600円)	